

| | | | | |
|---|--|------------------|---------------|------------------|
| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
| ガイドヘルパー講座Ⅱ Course of Study on Mobility Guide Ⅱ | | 2年 | 後期1 / 2 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 1単位 | 演習 | 選択 | (ガイドヘルパーユニット) | ガイドヘルパーユニット履修者のみ |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| ガイドヘルパー講座Ⅰ・Ⅲ | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| ガイドヘルパー講座Ⅰ・Ⅲ | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | | 電話番号・メールアドレス |
| 久保 由佳 | 福祉棟2F | 月～金 (授業時間を除く) | | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | | |
| 全身性障害および知的障害のある人の移動支援に関する基礎知識や介護上の留意点について学習する。そして、車いすの利用を含めた、障害に応じた移動支援の技術を習得する。また、事例検討を通して、さまざまな場面における支援の実際について学び、支援のあり方について考える。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①全身性障害および知的障害のある人の日常生活を捉え、障害のある人の思いに気付くことができるようにする。 ②全身性障害のある人の移動支援方法と留意点を説明でき、安全・安楽に外出支援ができるようにする。 ③知的障害のある人の障害特性を受け入れ、その人に適した外出支援方法を考案できるようにする。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 講義・演習・視聴覚教材の活用・グループワーク・事例検討・ロールプレイ等、多様な形態である。 全身性障害のある人の移動支援演習は、校内および校外にて行う。 | | | | |
| 学習の成果(学習成果) | | | | |
| ①車椅子での移動支援を行うことができる。 ②利用者の状態に応じた支援方法を考案することができる。 ③全身性障害および知的障害のある人に対して、安全で快適な外出を支援することができる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | ガイダンス(授業のねらいと進め方・成績評価の方法・演習時の諸注意・欠席時の対応など) 全身性障害者の理解(ADLの障害を中心に) | | | |
| 第2回目 | 車いすでの移動の介護に係る技術に関する演習① (車いすの種類と機能、車いすでの姿勢保持、移動用リフトについて) | | | |
| 第3回目 | 車いすでの移動の介護に係る技術に関する演習②(車いすへの移乗介助、移動支援時の留意点) 【レポート1:移乗介助演習の振り返り】 | | | |
| 第4回目 | 車いすでの移動の介護に係る技術に関する演習③(車いすでの移動支援、車いす使用時の生活行為の介助) 【レポート2:車いすでの移動支援演習の振り返り】 | | | |
| 第5回目 | 行動援護の事例の検討に関する演習①(ADLの障害を中心とした行動援護利用者の理解) | | | |
| 第6回目 | 行動援護の事例の検討に関する演習②(視聴覚教材による事例の理解) | | | |

| | | | |
|---|---|-----|--|
| 第7回目 | 行動援護の事例の検討に関する演習③(生活障害への関わり方・手段など) 【レポート3:障害特性体験の振り返り】 | | |
| 第8回目 | 行動援護の支援技術に関する演習①(知的障害児の事例による支援方法) | | |
| 第9回目 | 行動援護の支援技術に関する演習②(知的障害児の事例を用いたロールプレイ) | | |
| 第10回目 | 行動援護の事例分析に関する演習①(外出支援計画の作成方法と作成上の留意点) | | |
| 第11回目 | 行動援護の事例分析に関する演習②(事例をもとに外出支援計画の作成:関連する障害特性の検討) | | |
| 第12回目 | 行動援護の事例分析に関する演習③(事例をもとに外出支援計画の作成:支援方法の検討) | | |
| 第13回目 | 行動援護の事例分析の検討に関する演習①(発表) | | |
| 第14回目 | 行動援護の事例分析の検討に関する演習②(事例の振り返り)、試験 | | |
| 第15回目 | 行動援護の事例分析の検討に関する演習③(事例のまとめ) | | |
| 成績評価の方法と基準 | | | |
| 評価の領域 | | 割合 | 評価の基準 |
| 授業参加態度 | | 20% | S評価は、①授業で使用している教材を準備している。②授業に集中し必要なことをノートにとっている。③演習時は身だしなみを整え、積極的に取り組んでいる。 |
| レポート | | 30% | 演習後の振り返りレポートを課す。Sのレポートは、体験したことを振り返り、学び・気づきが具体的に記述されていること。対象となる利用者を理解し、援助の視点についてまとめられていること。 |
| 調査報告書 | | | |
| 小テスト | | | |
| 試験 | | 40% | 記述形式の問題とする。特に行動援護従業者の内容に関しては事例を用いた問題とする。 |
| 発表内容(態度含む) | | 10% | 外出支援計画の内容を以下の視点で評価する。①利用者視点で事例を的確に捉えている。②支援計画が具体的に考えられている。③障害特性をもとに関わり方を工夫している。④発表態度(声の大きさや言葉遣い) |
| その他 | | | |
| 教科書と参考図書 | | | |
| ①ガイドヘルパー研修テキスト 全身性障害編 中央法規出版 ②新・事例で学ぶ知的障害者ガイドヘルパー入門 行動援護・移動支援のために 中央法規出版 その他、適宜資料を配布する。 | | | |
| 履修上の留意点・ルール | | | |
| クォーター(後半)科目であり、週2回の授業となる。ガイドヘルパー講座Ⅰ～Ⅲの単位を取得し、必要な手続きをすると、「修了証明書」が発行される。講義・演習ともに積極的に参加すること。グループワークでは積極的に意見交換し、学びを共有すること。飲食物や携帯電話等、教材以外のものは机上に置かない。やむを得ず欠席した場合には、速やかに届け出を提出すること。 | | | |